

ぼくもみんなも誰かの代表

松原市立河合小学校 6年 松實 裕斗

ぼくは、『犯罪』という言葉はテレビでよく聞くから知っているけれど、『非行』という言葉は知らなかったから、国語辞典で調べました。辞典には“よくない行い”とだけ書いていました。そのことを、お父さんとお母さんに言うと、

「じゃあ、裕斗の身近で見たり聞いたり、自分がされたり、してしまった悪いことって何がある？」

と聞かれたので、何があるか考えたら、人やお店に迷惑をかける・人のことをばかにする・相手にケガをさせる・悪口を言う・イジメや仲間はずれにする…とたくさんありました。そしたらお母さんから

「もし自分は人にしてないなら、なんでしないのか考えたことある？」

と聞かれたのでこうこたえました。ぼくがしない理由は

- 1.してはいけないと思っているから
- 2.自分がされたらいやだから
- 3.された人が悲しくてつらい気持ちになるから
- 4.もし自分がしたことで、お父さんやお母さん、お兄ちゃんが謝ったりしないといけなくなったり、何か言われたりしてしまうかもしれないから

これを聞いたお父さんが、

「相手の事を思いやることはすごく大事なこと。何かしようと思う時に、それができたら悪いことはできんと思うよ」

と言いました。言われてすぐにはわからなかったけど、最近のニュースの話でわかりやすく説明してくれました。

「食べ物屋さんの商品や置いてあるものを汚したり、むちゃくちゃなことをして、それがSNSであつという間に広がって、テレビにも出たりして、悪いことをした人が未成年やったら、その人の家族や学校の先生が謝ってるやろ？やった人が、これをしたらどうなるか考えることができてたら、あんなことにはならなかったはず。」

そして『自分もみんなも誰かの代表やねんで』

と言いました。お母さんは、

「裕斗もママもパパもににもみんなが家族の代表で、裕斗はクラスや学校の代表、松原市の代表、もっと大きく言えば大阪、日本の代表と思って行動したらきっと悪いことなんかできなくなると思うで。悪いことをしたら同じ分類の人達が悪いことをした人と同じように見られるし、同じ分類の中の自分じゃない責任者の人が謝らなあかんねんで。逆にいい事をすればみんなも良く思ってもらえるからうれしいよなあ」

と話してくれました。それを聞いてぼくは、今までいつも言われてたことの意味がちゃんとわかりました。悪いことをしてしまいそうな時は、ちょっと考えてみるだけで、誰かのことを思いやるだけでやめられるかもしれないし、みんながそんな風に思ってくれたら、

非行や犯罪は減っていくんじゃないかと思いました。

そしてもう一つ、家族で話したことがあります。それは『あいさつ』です。ぼくの家はぼくが生まれる前に泥ぼうに入られたことがあって、その時にセコムの人から、家の前を通る人で見かけない人や知らない人もあいさつするだけで、自分は見られてる、この家の人は周りをよく見ていると思って、悪いことをする人はいやがって犯罪を防ぐことにつながりますよと教えてもらった」そうです。

そんな簡単なことで犯罪が防げるならぼくにもできそうです。ぼくだけじゃなくて、近くの人や学校の友達、誰にでも出来ることだし、あいさつは自分からしても、してもらってもうれしいからいいことばかりだと思います。そして『自分もみんなも誰かの代表』ということのを忘れないようにして、悪いことが少しでも減って今よりもっと明るくて楽しい社会にしていきたいです。

最後に、この作文を書くことになって、考えたり書くのは大変だったけど、家族で一つのことをたくさん話ができうれしかったです。